京都大学学術情報リポジトリ
KURENAI 紅
Kyoto University Research Information Repository

京都大学
KYOTO UNIVERSITY

Title	<研究論文>契丹語形容詞の性・数標示体系について
Author(s)	大竹, 昌巳
Citation	京都大学言語学研究=Kyoto University Linguistic Research (2016), 35: 59-89
Issue Date	2016-12-31
URL	http://hdl.handle.net/2433/219016
Right	© 京都大学言語学研究室 2016
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

Kyoto University

京都大学言語学研究 (*Kyoto University Linguistic Research*) **35** (2016), 59–89

契丹語形容詞の性・数標示体系について

大竹　昌巳

【要旨】契丹語は，系統を同じくするモンゴル諸語と同様に膠着語的な性格が強く，その形態変化のほとんどが接辞附加として分析可能である。契丹語には文法範疇として性・数が存在するが，その標示体系も，すでに解明されている部分に関しては，接辞附加によって成立している。本稿は，未解明である形容詞の性・数標示体系を明らかにすることを目的とする。そのために，形容詞の性・数標示に関わる用例を収集し，例文の読解を行った。結果として，形容詞の複数形は，他品詞と同様に接辞附加によって形成されるが，一部の女性単数形は，母音の前舌化という形態操作によって形成されることが明らかとなった。これは，従来接辞附加以外の形態操作が想定されていなかった契丹語形態論を解明する上で，非常に重要な発見である[*]。

【キーワード】契丹小字，屈折形態論，接辞附加，前舌化

1　はじめに

1.1　契丹語の形態変化

契丹語は，現在解読の途上にある 10–12 世紀の契丹文字文献によって知られ，モンゴル諸語と系統を同じくする言語である。モンゴル諸語は，語彙的意味を表す語根に種々の文法的意味を表す接辞を附加して語の屈折や派生を行う典型的な「膠着語（agglutinating languages）」であり，その特徴は契丹語にも基本的に当て嵌まる[1]。例えば，

[*] 本稿の執筆に際して 2 名の匿名査読者にコメントを頂き，それによって特に論旨・文意が明快でない部分を修正することができた。お礼申し上げる。なお，本研究は JSPS 科研費（特別研究員奨励費 26・3830）の助成を受けたものである。

[1] その他の契丹語の文法的特徴を略述しておく。本稿の例文読解の一助とされたい。契丹語は主要部後置型の言語であり，項は述語に，修飾語句は被修飾語句に先行し，接尾辞・後置詞を多用する（ただし前置否定詞がある。また修辞的要因により項が倒置されることがある）。項の文法関係は格接辞や後置詞によって示されるため，語順は比較的自由である。また，主語に限らず項の省略が可能である。主格・対格型の格排列をもつが，differential object marking の特徴をもち，有形の対格接辞を用いるのは単数の人間名詞または名詞節に限られ，それ以外では接辞ゼロ（主格と同形）である。動詞の活用形は定動詞・形動詞・副動詞の 3 類がある。形動詞は連体節・名詞節・主節の述語となり，副動詞は連用節（並列節と副詞節）の述語となる。従属節の主語は対格（有形の対格またはゼロ対格）で標示される。形容詞名詞型の言語であり，形容詞はそのままで名詞としても機能する。コピュラ文においてコピュラ動詞は省略可能である。

契丹語のいくつかの名詞における曲用パラダイムを一部示すと(1)の如くである[2]。

(1)

単数主格・ゼロ対格	単数属格・対格	単数与位格	複数主格・対格	
丙 *məə*	丙公 *məə-n*	丙矢 *məə-nd*	丙令 *məə-d*	《母》
丰 *ay*	丰朽 *ay-n*	丰矢 *ay-nd*	丰仐 *ay-s*	《年》
夬 *ňär*	夬关 *ňär-ii*	夬矢 *ňär-(e)nd*	夬伏 *ňär-(e)ň*	《太陽，日》
亚 *xaa*	亚丑爻 *xağ-(a)n*	亚丑火 *xağ-(a)nd*	亚丑亦 *xağ-(a)d*	《君主，可汗（カガン）》
丙爻 *məər*	丙爻朽 *məər-(e)n*	丙令 *məəd-d*	丙夯 *məəǰ-ǰ*	《道》

このように，語根 /məə/《母》，/ay/《年》，/ňär/《太陽》，/xağ/《君主》，/məər/《道》と接尾辞 /-n/, /-ii/（属格・対格），/-nd/, /-d/（与位格），/-d/, /-s/, /-ň/, /-y/（複数）との境界は明確で，各形態素が担う意味もはっきりしている[3]。契丹語の形態変化は，このような接辞附加によってほとんどが分析可能である。

1.2 契丹語における文法範疇〈性・数〉の発見

契丹語には文法範疇として性・数が存在する。文法的性の存在は，豊田（1991）によって初めて示唆された。豊田は，兄弟姉妹や子女の長幼の順序を示すのに用いる「序数詞」について，指示対象の自然性に応じた標示の異なりを発見している（2）[4]。

---

[2] 契丹文字には，契丹大字と契丹小字という 2 種類の文字体系が存在した。本稿では，解読がより進み，文献量も多い契丹小字に依拠して考察を行う。本稿で用いる推定音価や翻字・転写方式，音韻論的・形態論的解釈，語義等は筆者によるものである。これは，筆者を含む先行諸研究の成果に立脚したものだが，研究者間に定論のない部分も多くあることを予め断っておく。

契丹語の母音は /a [ɑ], e [ə], o [ɔ], ө [o], ʊ [ʊ], u [u], ä [ɛ], ë [e], ö [œ], ӧ [ø], ü [y], ї [i], (ı [i])/ からなり，/ä, ë, ö, ӧ, ü/ と /a, e, o, ө, ʊ, u/ は前舌性の有無で対立している。子音は唇音 /p, b, m, (v)/，歯茎音 /t, d, s, r, n, l, (c [tsʰ], z [ts])/，歯茎硬口蓋音 /č, ǰ, š, ž, ň, ľ/，硬口蓋音 /y/，軟口蓋・口蓋垂音 /k, g, x, γ, ğ, ŋ/，その円唇化音 /gʷ, xʷ, γʷ, ğʷ, ŋʷ, w/ からなる。( ) は借用語にのみ使用される音素。なお，例文中で *p̄, ṯ, ç̄* と転写してあるのは，表記上は /p, t, č/ との区別がないが，音韻上は /b, d, ǰ/ を表していると考えられるものである。

[3] これらの語の形態素分析に必要な形態音素的交替について説明を加えておく。/xağ/《君主》のように軟口蓋弱摩擦音 *ğ* 終わりの語幹（以下 *ğ* 語幹）では，接辞が何ら後続しない場合，語末の *ğ* が前接する母音の長音化要素として実現するため，単数主格形は *xaa* となる。また，/məər/《道》のように一部の *r* 終わりの語幹（以下 *r* 語幹）では，一部の子音始まりの接辞が後続する場合，語幹末の *r* が後続子音に完全同化する。そのため，/məər/ に与位格接辞 /-d/ が後続すると *məədd* となる。また，一部の *r, d, s, ž, l* 終わりの語幹に *y* が後続すると，子音連続 *ry, dy, sy, žy* はいずれも *ǰǰ* に，*ly* は *ľľ* になる。ゆえに /məər/ の複数形は *məəǰǰ* となる。その他，許されない子音連続を解消するために母音が挿入される。本稿では便宜的に，語幹と接辞の間に挿入母音が見られる場合，形態素境界（-）を挟んで接辞側に挿入母音を書き記す。

[4] 豊田が「序数詞」とする語のうち，「長」は実際には「大きい」を表す形容詞である。

(2)

	長	次	第三	第四	第五
男性	又及	𘠽化父	父父，刃化父	令化父	令币及扎，令东及扎
女性	又	𘠽化当	父当，刃化当	令化当	令币及肉

愛新覺羅(2003)は，上記の語と被修飾語との間に共起制限があることを示した(3)。しかし，自然性によってその共起制限が説明できるのは人間を指す名詞に限られ，それ以外の名詞については何故そのような共起制限が生じるのかを説明するのが困難であると述べている（56 頁)。

(3) 又及 方《長弟》 又及 矢《皇天》 𘠽化父 方《次弟》 父父 廿《翌々月》
又 百 几《長妻》 又 𠂢𠂢《大国》 𘠽化当 百 几《次妻》 父当 𠂢《翌々日》

一方，吳英喆（2005）は上記のように修飾語が被修飾語の違いに応じて（自然性と密接に関係する）形態変化を生じる事実から，契丹語に文法範疇としての性が存在すると論じた。吳の言うように，文法的性を認めなければ，上記のような被修飾語と修飾語の一致を説明するのは困難であろう。

吳英喆（2006）は，基数詞にも性による区別が存在することを発見しており，その区別は表記上，字素の右肩の点の有無に依っている（4)。ただし，音韻上どのような差異があるのかは論じられていない（以下の訳語は本稿筆者による)。

(4) a. 𘠽父 丹刃出 包
男の 子供が 三人。

b. 百令 丹刃出 包
女の 子供が 三人。

c. 包 𘠽币村
三人の 王の

d. 包 百令村
三人の 女の

性の標示は，動詞の形動詞形にも見られる。愛新覺羅（2003）は，形動詞が連体修飾語として使用された場合の一致の例（5a, b）および主節述語として使用された場合の一致の例（5c, d）を提示している（より詳細な議論は大竹 2015 を参照)。

(5) a. 去父 𘠽
儲けた 父（生父）

b. 去当 百
儲けた 母（生母）

c. 几火 (…略…) 矢 𘠽分𘠽丑为𘠽 乞 丞 发 𘠽 圣 廾 乞 𠂢矢 但父
公は 重 熙 十 庚 辰 年 二 月 十 日に 生まれた。

d. 尔火 (…略…) 又 令丙刃 斥 𘠽 戈 廾 乞 𘠽 𠂢矢 但当
娘子は 大 康 七 年 五 月 十 八 日に 生まれた。

一方，契丹語において名詞が複数接辞の附加による数標示を行うことは夙に知られていたが，数の一致の例を明示したのは高路加（1988）が最初である（6）。

(6) a. 𘰾　𘰽　　b. 𘰾-令　𘰽-仐(-𘰿)
その　年　　その-PL　年-PL

主節述語動詞における主格項との数の一致は大竹（2015）で論じられている（7）。

(7) a. 又及　百币欠　生　杏余凡　戈廾必屮
moo　*yodoγ ab.*　*ʊňʊγ-ʊnd*　*šʊǧʊn-ber.*
大きい.M.SG　MN　阿不(MT)　幼い.M.SG-DAT　死ぬ-P.PST.M.SG

「長（男）は *Yodoγ* 阿不である。（彼は）夭折した。」［K.DIL 16］

b. 又公丈　业当　仐支　丞矢　戈廾必丹伏
m...öγ^{w}　*pʊŋ*^{w} *sëë.*　*...-end*　*šʊǧʊn-beňň.*
先頭の.F.SG　FN　幼い.F.SG-DAT　死ぬ-P.PST.F.SG

「長（女）は *Pʊŋ*^{w} *sëë* である。（彼女は）夭折した。」［K.DIL 19］

c. †几夾　𠂢[5]　忒　业关丙　𘰽忿　丹刘出　杏欠伏𘰿　戈廾必匀
guy oŋ^{w}*,*　*tay pii-n*　*ayd*　*baγ-aň*　*ʊňoγʊň-eer*　*šʊǧʊn-beǰǰ.*
国王(MT)　太妃(FT)-GEN　男の.PL　子-PL　幼い.PL-DAT　死ぬ-P.PST.PL

「国王と太妃の息子たちは夭折した。」［S.JUR 18］

d. 百令　丹刘出　（…中略…）　包　杏余伏𘰿　戈廾必匀
mʊʊd　*baγ-aň*　*γʊʊr*　*ʊňʊγʊň-eer*　*šʊǧʊn-beǰǰ.*
女の.PL　子-PL　三.F　幼い.PL-DAT　死ぬ-P.PST.PL

「娘…三人は夭折した。」［K.DIL 17–18］

(7c, d)が示すように，男性の複数と女性の複数は同形式であり，区別されない。つまり，性・数の組み合わせによる形態的対立は最大でも男性単数・女性単数・複数の3形式である[6]。ただし，形態素によっては単数形においても性による形態的区別がないものもある。例を(8)に示す。

[5] 左肩に「†」を附した語は，原文で闕字または平出によって表敬されていることを表す。
[6] なお，契丹語には人称や格の一致は見られない。

(8) a. 𗼇 𗼭 𗼇 𗼰 𗼇 𗽾 𗼇 𗾞𗽅

tee *ay* *tee* *sayr* *tee* *ňär* *tee* *poo-nd*

その.SG 年(F) その.SG 月(M) その.SG 日(F) その.SG 刻(F)-DAT

「その年その月その日その刻に」[O.JUR 42–43]

b. 𗹭𗼭𗼯 𗼰𗽅𗼭𗼰 𗽾

dağar *oo-lay* *ňär*

遺骸?[7] 入る-P.PRS.SG 日(F)

c. 𗹭𗼭𗼯 𗼰𗽅𗼭𗼰 𗽅𗼰𗼭 𗼰𗼭

dağar *oo-lay* *čaard* *sayr-end*

遺骸? 入る-P.PRS.SG 前の.M.SG 月(M)-DAT

「遺骸が埋葬される日」[URD 蓋]「遺骸が埋葬される前月に」[YER 22]

ňär《日》は女性名詞，*sayr*《月》は男性名詞であるが，その修飾語たる遠称指示詞は常に *tee* であり，性による形態変化が生じない（8a）。形動詞現在 *-lay* も同様（8b, c）。

1.3 性・数標示の形成法

契丹語において性かつ／または数の標示をもつことが確認されるのは，名詞・形容詞・序数詞・基数詞・指示詞・形動詞である[8]。このうち，形動詞・序数詞・指示詞の形態変化について整理すると以下のようになる[9]。

(9)

	男性単数	女性単数	複数
形動詞過去(1)	*-eer* [-𗼰]	*-eeňň* [-𗼇]	*-eejj* [-𗼭𗾞]
〃 過去(2)	*-ber* [-𗼯𗼮/-𗼲]	*-beňň* [-𗼯𗼰]	*-bejj* [-𗼯𗾞/-𗼬]
〃 過去(3)	*-ler* [-𗼲𗼮]	*-leňň* [-𗼲𗼰]	*-lejj* [-𗼲𗾞]
〃 現在(1)	*-leg* [-𗼲𗼤]		*-leged* [-𗼲𗼤𗼰]
〃 現在(2)	*-ii* [-𗼫]	※	*-ee* [-𗼭]
形動詞未来	*-uuj* [-𗼮𗼱]		*-uujed* [-𗼮𗼱𗼰]
序数詞	*-deer* [-𗼰𗼰]	*-deeňň* [*-𗼰𗼇]	—
近称指示詞	*ee* [𗼭]		*eed* [𗼳]
遠称指示詞	*tee* [𗼇]		*teed* [𗼇𗼳]

[7] 「?」を附した語義は試案である。

[8] 序数詞と 2 桁までの基数詞の複数形は在証されない。それらの複数形を使用するような場面がそもそも一般には想定しにくい。3 桁以上の基数詞になると，𗼱𗽆 *jawd*《百.PL》「数百」のように用例がある。

[9] 形動詞と序数詞の語幹部分は（形動詞現在(2)を除いて）形態変化を生じないので，接辞部分のみを示す。ここでは最も無標な形式のみを挙げ，種々の異形態を省略した。[ ] 内にはその形式を表す代表的な表記を挙げたが，この表記も語幹との関係によって様々に変わる。なお，※で示した形動詞現在(2)・女性単数形の形成法については別稿で論ずる。

上記の形態変化は，形動詞現在⑵を除いて，以下の 2 パタンに還元できる。

(10)	男性単数	女性単数	複数
a. *r* 語幹	/-Ø/	/-ň/	/-y/
b. その他	/-Ø/		/-d/

すなわち，男性単数形が *r* で終わる形動詞過去と序数詞は，男性単数形を語幹とみなした時，女性単数形は語幹に /-ň/ を加えたもの（*-rň* → *-ňň*），複数形は語幹に /-y/ を加えたもの（*-ry* → *-jj*）である[10]。一方，性の区別がない形動詞現在⑴・未来と指示詞は，単数形を語幹とみなした時，複数形はそれに /-d/ を加えたものである。このように，性・数の標示体系も，多くが接辞附加という形態操作によって成立していることが理解できる。そして，ここに見られる複数接辞 /-y/, /-d/ が，名詞の複数形を形成する接尾辞（1.1 節参照）と共通することも特筆しておかなければならない。

さて，では残る形容詞と基数詞および形動詞現在⑵はどのような形態操作によって性・数標示体系を作り上げているのであろう。本稿ではこの問題の一端を解決するために，形容詞の性・数標示体系を明らかにすることを目標とする。

2　いくつかの形容詞の解読

2.1　形容詞の定義

契丹語の品詞は，時制・相・法・態等を表す活用語尾をとる動詞類と，活用語尾をとらずに曲用語尾（格接尾辞）をとる名詞類，いずれの語尾もとらない不変化詞類の 3 つに大別される。このうち名詞類は，統語的には述語の項やコピュラ文の補語になれ，名詞を修飾することができる。形容詞はこの名詞類の下位類であり，意味的には事物の属性を表すものと定義できる。同じく名詞類の下位類である名詞との違いは，名詞が固有の文法的性をもつのに対して，形容詞はそれをもたず，文法関係によってその性・数が定まることである。

以下では，形容詞と考えられる語を契丹小字テキストの読解を通して抽出する。対象とするのは，意味が推測可能で，できるかぎり男性単数・女性単数・複数それぞれの形式が在証されるものである。ただし，紙幅の都合上，一部を取り上げたにすぎず，その取捨選択が恣意的にならざるをえなかったことを断っておく。なお，契丹語テキストでは形容詞はしばしば対義語と共起するため，対義的な形容詞を併せて検討する。

[10] *r* 語幹に関わる音韻規則については註 3 を参照。

2.2 「大きい」「小さい」

前節で触れたように，𗼇𗴲 *moo* は「大きい」を表す語の男性（単数）形，𗼇 はその女性（単数）形である。字素 𗼇 の音価は，*Cää*（*C* はゼロを含む任意の子音）と韻を踏むことから，*mää* と推定される[11]。ただし，この *moo* と *mää* は接辞無後続形であって，接辞が後続する形式は各々 𗼇𗵆- *moğʷ*-, 𗼇𗴼- *mäğ*- である[12]。

一方，「小さい」を表す語としては，𗹦𗼇 *oǰoγʷ*（𗹦𗵆 *oǰʊγʷ* とも）［即實 1994］と 𗰜𗴲 *...öγʷ*[13]［愛新覺羅 2003: 57］が確認されており，愛新覺羅（2003）は 𗹦𗼇 が男性（単数）形，𗰜𗴲 が女性（単数）形であるとしている[14]。以下にそれを示す。

(11) a. 𗹦𗼇　　𗼇𗴲𗵆𗴼[15]　　𗀛𗼇𗴼𗼇𗴲　　𗍫𗰜𗴼𗼇

oǰoγʷ　　*mooğ-ond*　　*yëëruuǰ*　　*kuul-eğ-eer.*

小さい.M.SG　大きい.M.SG-DAT　等しく　　倣う-PASS-P.PST.M.SG

「老若に〔＝年齢を問わず全ての人に〕等しく見倣われた。」［TOG 14–15］

b. 𗰜𗴲　　𗼧𗴽

...öγʷ　　*ewd-d*

小さい.F.SG　齢(F)-DAT

「若い時分に」［UYE 10］

c. 𗍫　𗵆𗴼𗴲　　𗼧𗴽

...　ṭeğ-eeňň　　*ewd-d*

十　超える-P.PST.F.SG　齢(F)-DAT

「十余歳の時に」［K.DIL 10］

(11a)では，「大きい」を表す 𗼇𗴲 *moo* が男性単数形であることから，「小さい」を表す語も男性単数形であると推定できる。このように形容詞が，当該形容詞が表す属性をもった不特定多数のヒトを表す名詞として機能する場合，男性単数扱いとなる。

また，(11c)の修飾要素から 𗼧𗴽 *ewr*《年齢》（*r* 語幹）が女性名詞であることが判るので，(11b)において *ewr* を修飾する 𗰜𗴲 *...öγʷ* は女性単数形である。

複数形は先行研究では指摘されていないが，「大きい」が 𗼇𗼧𗴲 *mağas*（12），「小さい」が 𗹦𗵆𗼧 *oǰʊγos* である（13）。

---

[11] 頭子音の音価推定に当たっては，契丹語の語幹の屈折が補充法（suppletion）に依らないことを前提している。

[12] *ğ* 語幹のふるまいについては註 3 を参照。

[13] 音価未定の部分は「...」で転写する。

[14] 「小さい」を表す語に関しては，別に 𗹬𗵆 *ʊňʊγʷ*（𗹬𗹦 *ʊňoγʷ*, 𗼃𗵆 *oňʊγʷ* とも）［愛新覺羅 2004: 236–237］と 𗵆 ［即實 1988: 62］が確認されている。年齢に関しての使用例では，𗹬𗵆, 𗵆 が幼少期を指すのに対し，𗹦𗼇, 𗰜𗴲 はある程度幅のある若い期間を指し，前者の方が年齢が小さい（これらの語の性・数形式については(7)を参照）。

[15] 𗼇𗴲- は 𗼇𗵆- *moğʷ*- の異表記。

(12) 呉又天　米歹　又丑冬　又久矢　羽朽　为出　　令　互朽　安天　为火必
...er-ii　orduu　mağas　muguľ-ľ　uǰen　aa-ň,　　γοʊ šen　ŋii tuuŋg-un
契丹-GEN 行宮　大きい.PL　湖沼-PL　内に　ある-C.COND　谷神(MN)　儀同(MT)-ACC

又丑冬　而羽　圡生　　爪火化仐圡　化歹犮　令非刃　爪奀　刁　爪为廾
mağas　čawǰ-ǰ　oreľ-ľ　kuyr-seel,　uduwee　tügür　kib　...　daw-aaǰǰ.
大きい.PL　軍-PL　率いる-C.SEQ　至る-C.ADV[16]　???[17]　見張り　全て　NEG　見る-P.PST.PL

「契丹の行宮が大きな沼沢群の中にあったので，谷神儀同〔完顔希尹〕が大軍を率いてやってきても，××見張りは皆監視していなかった[18]。」［O.JUR 10–11］

(12)では被修飾語 *muguľ-ľ*《湖沼》（単数形 *mugul*[19]。性不明），*čawǰǰ*《軍，戦》（単数形 *čawr*。女性名詞）が複数形なので，修飾語 *mağas* が複数形であることが判る。*mağas* が「大きい」を意味することも，文中の *mağas čawǰǰ* が漢文史料の「大軍」に対応する（註 18）ことによって裏付けられる。

(13) 丰　仐各必　　仐为木　　朱化爻　　丹力天　业禹矢　　爪圧冇用岔冇
ay　säŋγon　saa-r　　čuddeer　bäγ-ii　pin-end　küžey-leğ-ey,
父　詳穏(MT)　居る-P.PST.M.SG　第二.M.SG　子-ACC　戸-DAT　従事する?-CAUS-C.SEQ

州余攴　圣朽　　冈矢　　及子丑亏又
oǰʊγos　...-en　...-end　oo-lağ-aler.
小さい.PL　二.M-ACC　労役-DAT　入る-CAUS-P.PST.M.SG

「父詳穏は，存命の次男を戸に従事させ，下の（息子）二人を奉公に就かせた[20]。」
［GAR 16–17］

例文中の 州余攴 *oǰʊγos* は 4 人兄弟のうちの三男・四男の 2 人を指すとみられ，文脈および男性単数形 州欠 *oǰoγ*^{w}（州余 *oǰʊγ*^{w}）との形式的類似から，「小さい」を意味する語の複数形であることは明白である。

[16] 副詞節をつくる副動詞接辞 *-seel* の意味は未詳のため，グロスでは単に「C.ADV」とする。
[17] 意味未詳の形態素はグロスで「???」と表記し，対応する訳文では「××」と表記する。
[18] 遼朝（契丹国）の皇帝はふつう四季ごとに定まった幕営地を主要な政府組織を伴って移動して暮らしたが，*orduu*《行宮，オルド》はそのまとまりを言う。ここでは 1125 年，遼朝最後の皇帝天祚帝が金の大軍に敗れ，西走する途中の様子が描かれている。漢文史料には「至霍里底泊，大軍奄至」［『金史』巻 82 蕭仲恭伝］と記されている（「霍里底泊」は泊（湖沼）名）。
[19] 単数主格形・ゼロ対格形は在証されないが，単数与位格形 又久火 *mugul-d* が在証される。
[20] この詳穏には 4 人の子息があり，長男はすでに亡くなっていた。

2.3 「首位の，第一の」

「首位の，第一の」を表す語は，大小を表す形容詞や序数詞と同じく早くから発見されており，又冬余 *masoγʷ*（又冬欠 *masoγʷ*），又公支 *m...öγʷ*［以上，王弘力 1986: 66］，又岁欠 *mosoγʷ*［愛新覺羅 2004c］がある。*masoγʷ*, *masoγʷ* > *mosoγʷ* における逆行円唇同化は性・数の形態変化とは無関係な共時的ゆれである[21]。愛新覺羅（2003）は 又冬余（又冬欠）を男性（単数）形，又公支 を女性（単数）形としている。以下に示す。

(14) a. 亚廾化屮 仕夂羽朽 又冬余 方
«...oǧodber üluuǰ-en masoγʷ dew»[22]
仁聖(MN)-GEN 第一の.M.SG 男性の同性年下きょうだい

「仁聖（大孝文皇帝）の長弟」［YR 9］

b. 朱化当 业农刈伏 九 又公支 九关 伏弓炎 丹力
čuddeeňň purubeň ... . m...öγʷ ...-ii ňäw-y bäγ.
第二.F.SG FN 乙林免(FT) 第一の.F.SG 乙林免(FT)-GEN 異性きょうだい-GEN 子

「次（妻）は *Purubeň* 乙林免である。（彼女は）第一夫人の兄弟の子である。」［S.DIL 31］

方 *dew* は男性を，九 は女性を指す語であるので，各々を修飾する 又冬余 *masoγʷ*, 又公支 *m...öγʷ* はそれぞれ男性単数形，女性単数形と考えられる。

複数形は，次の文に見える 又冬欠伏 *masoγoň* がそれである（同文中の 穴农公伏 *dawrddeň* については後述）。

(15) 尺劣 面为出 冊令 又冬欠伏 业並发 戈土夂 吊气 戈土夂
uǧʷee ...-aaňň gөөd-d masoγoň pëŋ šewᵠ,[23] *čaaŋ šewᵠ,*
于越(MT) 執る-P.PST.F.SG 家(F)-DAT 第一の.PL 彭寿(MN) 長寿(MN)

州欠 呆 戈土夂 色朽 孔化丑丰 伓当 冊令
oǰoγʷ čuŋʷ šewᵠ ...-en boyr-aǧ-ay, sʊʊy-eeňň gөөd-d
小さい.M.SG 崇寿(MN) 三.M-ACC ???-CAUS-C.SEQ 生まれる-P.PST.F.SG 家(F)-DAT

[21] 朱生余 *čaboγʷ*, 朱生欠 *čaboγʷ* > 朱疔欠 *čoboγʷ*《「阻卜」「朮不姑」等と音訳される民族名で，人名にも転用される》に全く同じ変化が観察される。他に，令赤及北 *tadoor* > 令帀及北 *todoor*《第五（男性単数）》も同様の変化を蒙っている。
[22] 韻文からの引用である場合には « » で括って示す。
[23] 右肩に *Q* を附した音節は，漢語の去声を表すための特殊表記がなされていることを表す。

<u>𐰀𐰆𐰋𐰴</u> <u>𐰃</u> <u>𐱅𐰇𐰆</u> <u>𐰋𐰍</u> <u>𐱅𐰇𐰆</u> 𐰋𐰃 𐰇𐰃 𐰇𐰃𐰇𐰃

dawrddeň puu šew^{O}, dey šew^{O} ...-en aa-lağ-ay.

真中の.PL 福寿(MN) 徳寿(MN) 二.M-ACC ある-CAUS-P.PRS.M.SG

「于越は，嗣いだ家に<u>上の（息子）彭寿・長寿</u>と末（子）崇寿の 3 人を××させ，生家に<u>真中の（息子）福寿・徳寿</u>の 2 人を居させている[24]。」［URD 50–51］

2.4 「新しい」「古い」

「新しい」を表す形容詞は 𐱅𐰇𐰆 *šän*［契丹文字研究小組 1977: 69，即實 1996: 267］と 𐱅𐰇𐰆 *šan*［即實 1996: 130］が確認されているが，両者の使い分けに関する研究はないので，以下に検討する。まず，𐱅𐰇𐰆 *šan* については以下のような用例がある。

(16) a. 𐰋𐰍 𐰀𐰆𐰋𐰃 <u>𐱅𐰇𐰆</u> †<u>𐰇𐰃𐰇𐰆</u> 𐰆𐰃 𐰋𐰍𐰉𐰆𐰓 𐰋𐰍𐰃 𐰴𐰃

suŋ^{w} gur-en šan xağ-an min sab-ooňň bays-laγ ǰaraar

宋 国-GEN 新しい.M.SG 皇帝-ACC 位 嗣ぐ-P.PST.F.SG 祝う-P.PRS.SG 使者(M)

「宋国の<u>新帝が位</u>を嗣いだことを祝賀する使者」［TOG 12］

b. 𐰚𐰃 𐰇 <u>𐱅𐰇𐰆</u> <u>𐰋</u> 𐰃𐰆 𐰇𐰆 𐰃𐰍𐰆 𐰃𐰇𐰋𐰇𐰆

tee=γ ay šan dor ...-ii, nay-en pim yʊγʊy ürey-lağ-aseel,

その.SG=? 年 新しい.M.SG 制度(M) 作る-C.SEQ 官-GEN 品 再び 並ぶ-CAUS-C.ADV

「その年〔金熙宗天眷元年〕，<u>新たな（官）制</u>を定めて官品を再び序すると[25]」［O.JUR 20］

(16a)の「新帝」は北宋の神宗を指し，もちろん男性である。(16b)の被修飾語 *dor*《礼儀，制度》（WMa. *doro*《id.》）も，(17)で修飾語が男性単数形であることから，男性名詞である。このように，修飾語 *šan* は男性名詞の単数形とのみ共起する。

(17) 𐰴 𐰇𐰃𐰇 𐰋𐰇 𐰉 𐰇 𐰇𐰋𐰃𐰆𐰴 <u>𐰆𐰋</u> <u>𐰋𐰍</u> 𐰆𐰴𐰍𐰴 𐰴𐰆𐰋𐰴

... arʊğoor γʊʊr ay čäwγʊr-ii moo dor-eer uur-leğ-eň,

乾統(EN) 三 年 漢-GEN 大きい.M.SG 儀礼(M)-INST 上げる-PASS-C.COND

「乾統三年，漢式の<u>大礼によって</u>（皇帝が）祭り上げられると」［URD 35］

[24] この于越の子息は 6 人おり，上から彭寿，長寿，福寿，徳寿，崇寿，慶寿（早世）である。
[25] 『金史』巻 55 百官志一に「熙宗頒<u>新官制</u>及換官格」とある。即實（1996: 130）も参照。

一方，ᠰᠠᠨ *šän* は以下のように用いられる。

(18) a. ᠰᠢᠢᠮ ᠰᠢᠢᠮ ᠰᠠᠨ ᠨᠠᠷ
«šiim šiim šän när»
ONOM 新しい.F.SG 墓(F) 「しーんと静か 新しき墓」［UMR 46］

b. ᠡᠷᠪᠡᠯ ᠵᠢᠷᠡᠡᠨᠨ ᠺᠤᠶᠷ-ᠰᠡᠡᠯ, ᠰᠠᠨ ᠫᠤᠤᠯ-ᠡᠡᠯ
eree yʊγʊy kuyr-seel, erbel ǰireeňň šän pūol-eel,
今 再び 至る-C.ADV 像 絵(F) 新しい.F.SG なる-C.SML
「今再び至ると，肖像画が新しくなるとともに」［LX 3］[26]

(18a)の被修飾語 *när*《墓》は以下の(19)に示すように女性名詞である。(18b)のコピュラ文の主語名詞句は *erbel ǰireeňň*《肖像画》で，その主要部 *ǰireeňň* は動詞 *ǰir-*《描く》（MMo. *ǰiru-*《id.》）の形動詞過去女性単数形に基づく転成名詞であり，したがって女性名詞である。ゆえに，(18a)の修飾語，(18b)のコピュラ文の補語である *šän* は女性単数形であり，前述の *šan* は男性単数形である。

(19) ᠩᠸᠷᠡᠨ ᠣᠩᠭ-ᠣᠨ ᠨᠠᠠᠰ-ᠪᠡᠨᠨ ᠨᠠᠷ
ṯëwreň oŋγ-on naas-beňň när
MN 王(MT)-ACC ???-P.PST.F.SG 墓(F) 「*Dëwreň* 王が××した墓」［D.CAL 70］

さらに，この語の複数形が以下の文中に見出される。

(20) ᠡᠵᠢ ᠰᠠᠶᠷ ᠠᠮᠡᠵᠵ-ᠡᠡᠷ ᠦᠵᠡᠳᠡᠨ ᠮᠠᠭᠠᠰ ᠴᠠᠸᠵ-ᠵ ᠺᠤᠶᠷ-ᠪᠡᠵᠵ. ... ᠨᠤᠮ ᠰᠠᠶᠷ
iž sayr aameǰǰ-eer uǰedeň mağas čawǰ-ǰ kuyr-beǰǰ. ... ňum sayr
九 月 古い.PL-DAT 内の.PL 大きい.PL 軍-PL 至る-P.PST.PL 十一 月

ᠰᠠᠨᠰ-ᠡᠡᠷ ᠪᠣ ᠭᠤᠴ ᠰᠠᠨ ᠫᠤᠤᠯ-ᠠᠭ̆-ᠠᠶ ᠴᠠᠸᠳ-ᠳ ᠣᠣ-ᠷ.
šans-eer bo γʊʊr tuuľ-ľ pūol-ağ̆-ay čawd-d oo-r.
新しい.PL-DAT 三.F ???-PL なる-CAUS-C.SEQ 戦-DAT 入る-P.PST.M.SG
「九月下旬に中央軍の大軍が至った。十一月上旬に三××として戦に入った。」
［D.CAL 44］

[26] 対応する漢語訳は「今復謁陵下，絵像一新」とある。

-eer は複数形に附加される与位格接辞なので［大竹 2016a］，*šans* が何らかの複数形であることが判る。/-s/ は複数接辞であり，/šan/ は上述のように「新しい」を意味する語の男性単数形であるから，*šans* をその複数形とみて差し支えない。このことは，モンゴル語で WMo. *sine*《新しい》の複数形 *sined* が「上旬，月初」を表す［蒙漢 876, 900 頁］[27]という事実によって支持される。

そして，前文に現れる *aamejǰ* は，WMo. *qaγučin*《古い》の複数形 *qaγučid* が「下旬，月末」を表す［蒙漢 876 頁］ことから，「古い」を表す語の複数形であると推測できる。このことは，ᠰᠠᠨ *šän* が ᠠᠮᠠᠭᠠ *aameňň* と対比的に使用される例があることによって支持される。

aamejǰ に対応する男性・女性各単数形は ᠠᠮᠠᠭᠠᠨ *aamar*, ᠠᠮᠠᠭᠠ *aameňň* である (21)。

(21) a. ᠰᠤᠨᠢ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠨᠢᠭᠤᠳ ᠠᠮᠠᠭᠠ ᠶᠡᠬᠡ ᠴᠢᠰᠤᠨ ᠬᠠᠷᠠᠭᠠᠴᠢ

dëërd suŋg-un ǰaraar aaǰ-ǰ, “...er-ii čiiž xarey-eer

南の.SG 宋-GEN 使者 行く-C.SEQ 契丹-GEN 血 繋ぐ?-P.PST.M.SG

ᠠᠮᠠᠭᠠᠨ ᠬᠦᠮᠦᠨ ᠪᠢ ᠪᠤᠯᠤᠭᠤᠨ ᠬᠦᠯᠢᠶᠡᠭᠡᠯ

aamar nay.” ... puluguǰ kuğul-leğ-eel,

古い.M.SG 臣下 QUOT とても もてなす-PASS-C.SML

「南の宋（へ）の使者として行って，『契丹の血脈を繋いだ旧臣である』と厚遇されていながら[28]」［O.JUR 17］

b. ᠰᠤᠨᠢ ᠳᠡᠭᠡᠭᠡᠳᠦ ᠠᠮᠠᠭᠠ ᠰᠤᠭ

«noo puužiň-en aameňň när»

配偶者 夫人(FT)-GEN 古い.F.SG 墓(F) 「妻夫人の旧墓」［GAR 45］

2.5 「余剰な」

後述する『周易』の一節の契丹語訳から，ᠪᠦᠯᠦᠭᠤ *pülüg*^{w} が「余剰な，たくさんの」を意味することが知られる［愛新覺羅 2004b: 116, 即實 2012: 62］。また，ᠪᠦᠯᠦᠭ *pulug*^{w} という語が閏月の「閏」を表すことが確認されているが［趙志偉、包瑞軍 2001: 38］，モンゴル語で閏月は WMo. *ilegüü sara*（lit. 余りの月）［蒙漢 168 頁］と表現することから，この語も同様の意味をもつと考えられる。

[27] 以下，內蒙古大學蒙古學研究院蒙古語文研究所（1999）を「蒙漢」と略称する。
[28] 当時，契丹人の国家である遼朝（907–1125）はすでに滅亡しており，この人物（男性）は女真人の金朝（1115–1234）の使者として宋に赴いた。

そこで両者の使い分けを検討すると，ᠯᡳᡠᡵᡠᠨ *pulug*^{w} は(22a)のように「閏」を表すのに用いられるが，被修飾名詞句 ᡆᡆ ᡳᡠ《六月》の主要部 ᡳᡠ *sayr*《月》は(22b)に示すように男性名詞である。よって，名詞句 ᡆᡆ ᡳᡠ《六月》も男性単数と解釈される。

(22) a. ᡭᡳ ᠰᡥᡠᡵᡠᡤᡠᠣᡵ ᡮᡳᡵ ᡝᡳ ᡮᡠᠣᠨ ᠯᡳᡠᡵᡠᠨ ᡆᡆ ᡳᡠ ᠴᡳ ᡮᡠᡵ ᡮᡳ
... arʊğoor jir ay jʊʊn pulug^{w} *... sayr ... dʊʊr ňär-end*
乾統(EN) 二 年 夏 余りの.M.SG 六 月(M) 十四 日-DAT

「乾統二年夏閏六月十四日に」［DEW 12–13］

b. ᡠᡠ ᡵᡠᡤᡝᡝᡵ ᡮᡠᡩᡩᡝᡝᡵ ᡳᡠᡵ ᡤᡠᡝᡝᠯ ᡠᡳᠨᡤᡠᡥᡳᡳ ᠰᠠᠯᡩᡝᡳᡳ
uu-leğ-eer ɣʊddeer sayr-end tug^{w}*eel yuŋguň-endii saldey-ii,*
与える-PASS-P.PST.M.SG 第三.M.SG 月(M)-DAT すぐに MN-ABL 別離する-C.SEQ

「嫁いだ翌々月に早くも（夫である）*Yuŋguň* と死別して」［YUN 34］

また，以下の形容詞コピュラ文は，日本語の「ＸハＹガＺ」（象は鼻が長い）構文に相当する文である。この構文では，「Ｘハ」句は動詞述語文の主語と同じように標示され（すなわち主節では主格 -Ø），「Ｙガ」句は直接目的語と同じように標示される（すなわち対格 /-n/, /-ii/ またはゼロ対格 -Ø）[29]。そして(23b)に示すように，形容詞Ｚは主節にある場合，主格名詞句Ｘの性・数と一致する。

(23) a. ᡱᠯᡠᡳᡳ ᡱᡠᡥᡠᡵᡠᡤᡝᡝ ᡱᡠᡥᡠᡵᡠᡤᡝᡝ ᡱᡠᡥᡠᡵᡠᡤᡝᡝ （…中略…） ᡮᡠᡵᡠᡤᡝᡝᠨ ᠯᡳᡠᡵᡠᠨ
Šorağaaňň Šiluu uğee al-laɣ-an pulug^{w}*.*
MN MN 于越(MT) 果たす?-P.PRS.SG-ACC 余りの.M.SG

「*Šorağaaňň Šiluu* 于越…。（彼は）できることが余りある。」［GAR 2］

b. ᡱᡠᡵ ᡱᡠᡵ ᡱᡠᡵ
Sʊʊ ewr oǰoɣ^{w}*.*
MN 齢(F) 小さい.M.SG 「（撰者である私）*Sʊʊ* は歳が若い。」［LUP 26］

よって ᠯᡳᡠᡵᡠᠨ *pulug*^{w} は単数の男性名詞句と呼応する形式と言える。次に，ᠯᡳᡠᡵᡳᡤᡠᠨ *pülüg*^{w} の例文を示す。

[29] 有形の対格とゼロ対格との使い分けについては註 1 を参照。

(24) 艾幺朱　　劥化岔当　　巾爻 仲　　衣当　　业仕非　　捺
šäğ-äy　　*čewd-eğ-eeňň*　　*gөөr öö*　　*čee-ňň*　　*pülüg*^{w}　　*xʊʊdʊγ*^{w}*;*
善い.SG-ACC　集まる-CAUS-P.PST.F.SG　家(F)　必ず　する-P.PST.F.SG　余りの.F.SG　福(F)

古为出朷　　劥化岔当　　巾爻 仲　　衣当　　业仕非　　孓丈为
modaaňň-en　　*čewd-eğ-eeňň*　　*gөөr öö*　　*čee-ňň*　　*pülüg*^{w}　　*γaǰaa.*
悪い.F.SG-ACC　集まる-CAUS-P.PST.F.SG　家(F)　必ず　する-P.PST.F.SG　余りの.F.SG　禍(F)

「善行を積んだ家は必ずなした，余りある福を；悪行を積んだ家は必ずなした，余りある禍を[30]。」［UMR 25］

被修飾語 捺 *xʊʊdʊγ*^{w}《幸福》（MMo. *qutuq*《id.》）は，乜 捺化 *dөөr xʊʊdʊγ-ʊd*（四.F 福-PL）「四福」［YR 20］という表現から女性名詞であることが判る。

よって，业平夂 *pulug*^{w} が男性単数形であるのに対し，业仕非 *pülüg*^{w} が女性単数形と推定される。なお，複数形は在証されないようである。

2.6 「善い」「悪い」

艾扌 *šää*《善い》（接辞後続形 艾幺- *šäğ-*，*ğ* 語幹）［即實 1996: 266］は比較的初期に語義が解明されたが，その対義語 古为出 *modaaňň*《悪い》の語義が解明されたのは，2.5 節で述べた契丹語訳『周易』の発見によってであった［愛新覺羅 2004b: 116］。(24)では，*šäğ, modaaňň* が各々名詞的に用いられて「善いコト」「悪いコト」を表すが，そのような場合は女性単数形が用いられる。(25)の一致はそれを支持する。

(25) 岳　　古为出朷　　尔化廾夬　　又　　艾幺朱　　公金攴
...　　*modaaňň-en*　　*ağʊdʊğ-ʊy,*　　*mää*　　*šäğ-äy*　　*dem-er,*
小さい.F.SG　悪い.F.SG-ACC　減らす-C.SEQ　大きい.F.SG　善い.SG-ACC　加える-C.???

「小さな悪事を減らして大きな善行を増やす××」［URD 58］

したがって 艾幺- *šäğ-*（艾扌 *šää*）と 古为出 *modaaňň* は女性単数に専用される形式と考えたいところだが，*šäğ-*（*šää*）に関してはそうではない。(26)では形容詞が，その属性をもった不特定多数のヒトを表す名詞句として機能しており，そのような場合は 2.2 節で述べたように男性単数形が用いられる。

[30] 『周易』(『易経』) 坤卦・文言伝の「積善之家，必有余慶；積不善之家，必有余殃」の翻訳。

(26) 又ㅓ　古为ネ矢　　ㄨ奀 公ホ友　　公金公　仞丑尔朴　　刀　北攵火
šää　*modaar-end*　*kib*　*nayjǰ-ii,*　*nemd*　*tağad-en*　*...*　*eeluu-y,*
善い.SG 悪い.M.SG-DAT 全て 親しむ-C.SEQ 近くの.SG 遠くの.SG-ACC NEG 区別する-C.SEQ

「貴賤みなと睦み，親疎を分け隔てせず」［D.CAL 59］

古为ネ *modaar* は形式から明らかに男性単数形と判断できるが，又ㅓ *šää* は後続接辞の有無による変化が生じた以外，(24, 25)の形式と変わりがない。このことは次の例文によっても示される。

(27) a. 圵ネ　又ㅓ　丙公　为ㄘ　ネ当
orǰ　*šää*　*mөө-n*　*aal*　*čee-ňň.*　「永く善母の名声をなした。」
長く 善い.SG 母-GEN 声音(F) する-P.PST.F.SG ［XUD 27］

b. 圵刈　几安朴　又ㅓ　穴
«xʊʊrǰ　*gur-en*　*šää*　*nay»*
契丹 国-GEN 善い.SG 臣下　「契丹国の良臣」［S.JUR 26］

(27a)の被修飾語 *mөө*《母》は当然女性名詞であり，(27b)の *nay*《臣下，官吏》は男性を指す。やはり 又ㅓ *šää* は性の区別なく使用される形式とみられる。

ただし，数の区別は「善い」にも「悪い」にも存在する（28, 29）。

(28) 丙令　丹刃出　圣　（…中略…）　ネ土　仝　丸公丙　为ㄘ刃夭　又丑尔
mөөd　*baγ-aň*　*ǰir.*　*čew*　*äm*　*ideğ-ey*　*aa-laγ-an*　*šağad.*
女の.PL 子-PL 二.F　厚く ??? 信じる-C.SEQ ある-P.PRS.SG-ACC 善い.PL

「娘は 2 人である。…（彼女らは）深く××に帰依していることが素晴らしい。」
［O.JUR 29］

(29) 公金　丞攴　古为攴　又化仝　ㄠ当　不升
nem　*baa-ǰǰ*　*modaaǰǰ*　*mir-d*　*aľľ-eeňň*　*xääž,*
近くに 留まる-P.PST.PL 悪い.PL 馬-PL 得る-P.PST.F.SG ちょうど

「近くに留めてあった貧相な馬（複数）を得るや否や」［O.JUR 11］

2.7 「長い」「短い」

永《長い》はごく初期から語義が解明されているが，今まで説得的な推定音価が提出されてこなかった。筆者はこれを *ör* と推定している[31]。まずこの語の用法を見る。

(30) a. 矢　　彳　　六爻　永
«...　taa　newee　ör.»
天(M)　遠くに　地(F)　長い.F.SG　「天は遠く，地は久し。」［DZ 37］

b. 令丙刃伏 𠂤　永　　仐金北　令生丌　　仐为丰
ṯëwreň oŋʷ　ör　semeel　tab-ey　saa-y,
MN　王(MT)　長い.F.SG 疾病(F)　蒙る?-C.SEQ　居る-C.SEQ
「*Dëwreň* 王は長患いに罹っていて」［D.CAL 63］

(30a)の *newee*《地》が女性名詞であることは(31)の後半句の一致により，(30b)の *semeel*《疾病》が女性名詞であることは(32)の一致によりそれぞれ示される。

(31) 矢　　丌　令丙刃爻　　及夵爻　　六爻　丌　刘冬爻　　九火当
«...　...　ṯëwr-eer　ooy-eer;　newee　...　ɣas-eer　guy-eeňň.»
天(M)　NEG　有徳者-INST　輔ける-P.PST.M.SG　地(F)　NEG　???-INST　???-P.PST.F.SG
「天は有徳の者を輔けなかった；地は　××　××しなかった。」［YUN 40］

(32) 文文仝 𡍮丙𡍮 𠂤为出　　仐金北
žëëm ŋëw-n　modaaňň　semeel
冉牛(MN)-GEN　悪い.F.SG　疾病(F)　「冉牛の悪疾[32]」［DEW 22］

このように 永 *ör* は単数の女性名詞としか共起しない。そこで男性名詞と共起するような「長い」を意味する語を探すと，𠃌 *or* に行き当たる。

[31] その最たる根拠は以下の通り。韻文中で，それ自身で *(C)är* と押韻する。また，音節頭子音を表す字素と組み合わせても *(C)är* と押韻する。このことから次のことが判る。第一に，この字素は頭子音をもたない母音始まりの音価をもつ。第二に，主母音は前舌母音の *ä* か *ö* である（押韻習慣から）。第三に，末子音は *r* である。しかし，*är* を表す字素は他にあり（𠂆），混淆例も見られないので，*är* ではない。したがって *ör* である。なお，人物名 丹永𠂉丑为出 *Bör*lağaaňň［YER 14］は漢字音写「別里懶 **byä.li.lan*」（『遼史』は「阿里懶」に誤る）に対応する。

[32] 「冉牛」は孔子の弟子である冉耕（字は伯牛）で，重い病を患っていたことで知られる。

(33) a. 午丹 午丹 六爻 冬本 几爻生 几爻生 父 北
«talb talb newee asar; *geel' geel'* *...* *or.»*
ONOM 地(F) 安寧な.SG ONOM 天(M) 長い.M.SG

「×× ×× 地は安らかにして；×× ×× 天は久し。」[XY 28–29]

b. 穴攴 友勺 为 北
«Daw^{Q}ǰiig *tuu* *or.»*
盗跖(MN) 寿命(M) 長い.M.SG 「盗跖，命長し[33]。」[UMR 45]

(33a)の 父《天》が男性名詞であることは(31)前半句の一致によって示される。(33b)の主格名詞句「盗跖」は男性である。したがって，北 *or* が男性単数形，本 *ör* が女性単数形である。

一方，この語の対義語については，即實（2012: 184）が 本 *ör* と対比的に使用される例がある 本午カ *čäräγ* を「短い」と解釈している。この解釈は支持できるものの，性・数については言及がないため検討を要する。

(34) a. 出攴 几只必 本当 丞 火用 本午力
guyuu kuǧ-un ...eeňň ... . *uyl* *čäräγ.*
下僕 人-GEN 学(F) 小さい.F.SG 才(F) 短い.SG

「(撰者である私) 僕人の学は少なく，才は足りない。」[URG 11]

b. 邪欠卡 又 百坐 丑几攴 公冬百当 火用 土伏
ǰawγos *mää* *məθ...* *mereg-er* *nasey-eeňň* *uyl* *ew-ň,*
MN 大きい.F.SG ???(F) 記す-C.??? ???-P.PST.F.SG 才(F) ない-C.COND

「(撰者である私) *J̌awγos* は，大××を記すにふさわしい(?)才能がないので」
[O.JUR 44]

(34a)において形容詞 *čäräγ* は主語である *uyl* の性・数に一致しているはずである。*uyl* は(34b)で修飾語が女性単数形であることから女性名詞であることが判るので，*čäräγ* は女性単数形の可能性がある。この語は 本午カ *čäräγ* の他に 本午刃 *čäraγ* という形式を見出すことができる。

[33] 盗跖は春秋時代の人物とされる，伝説の大盗賊団の首領。

(35) a. 父 ㇇ 天 ㇀ 㐀 ㇇ 为

ŋään šıı-n *čäraγ* *tuu*

顔氏(MN)-GEN 短い.SG 寿命(M) 「顔氏の短命[34]」［DEW 22］

b. 父 仪 久 火 ㇇ 㐀 ㇇ 为 ㇇ 子 ㇇ 为 ㇇ 与 ㇇ 㐀 ㇇ 为

... ...*ug-uy* *meree* *pōol-ağ-aal* ... *uğʷ-eer* *or* *tuu.*

天(M) ???-GEN 賢人 なる-CAUS-C.SML NEG 与える-P.PST.M.SG 長い.M.SG 寿命(M)

「天は（彼を）××の賢人にしておきながら（彼に）与えなかった，長寿を。」
［LUP 16–17］

(35a)の被修飾語 *tuu*《寿命》は(35b)から男性名詞と判るので，*čäraγ* は男性単数形のように見える。しかしながら，契丹語では非初頭音節の短母音における前舌／非前舌（*ä* / *a*）が音韻論的対立をなさず，㐀 ㇇ 为 *čäräγ* も 㐀 ㇇ 㐀 *čäraγ* も共に /čärγ/ と解釈されるので，これらは同語異綴にすぎない。したがって「短い」には男性単数と女性単数の区別がないと結論づけられる。「長い」も「短い」も複数形は在証されない。

2.8 色彩形容詞「青い」「赤い」「黄色い」「白い」「黒い」

契丹語では，干支は五色と十二獣の組み合わせで表される（e.g. 㐀 火 ㇇ 仌 *xärüü mir*《黒馬＝壬午》）。まず，干支で使用される五色の在証形式をすべて掲げる。

(36)

	（イ）	（ロ）	（ハ）
a. 青（甲乙）	仐 ㇇ 夫 *säwγʷ*	仐 ㇇ 余 *säwγʷ*	仐 夬 余 *sawγʷ*
b. 赤（丙丁）	丬 ㇇ 夫 *läwγʷ*	丬 ㇇ 余 *läwγʷ*	丬 ㇇ 余 *läwγʷ*
c. 黄（戊己）	山 ...		山 ...
d. 白（庚辛）	禾 *söö*		禾 *sʊʊ*
e. 黒（壬癸）	㐀 ㇇ 夂 *xäruu*, 㐀 火 *xärüü*		冇 ㇇ 夂 *xaruu*

（イ）は時代を通して在証されるのに対し，（ハ）は 1150 年以降の金代の文献（O.JUR, LAO, MEN）にしか在証されない。また，（ロ）は XZ に在証される形式で，（イ）の 仐 ㇇ 夫《青》，丬 ㇇ 夫《赤》と綴字が異なるものの，表す音韻は異ならない[35]。一方，（イ）の 㐀 ㇇ 夂 *xäruu*《黒》と 㐀 火 *xärüü*《id.》は明確に音形式が異なるが，これは

[34] 「顔氏」は孔子の筆頭弟子顔回を指す。『論語』には孔子が顔回の短命を嘆く説話がある。

[35] 同様の綴字交替が観察される例として，㐀 ㇇ 夫 火 天 仏 *čäwγoy iir*《漢名》［K.DIL 7］~ 犬 ㇇ 余 火 天 仏 *jäwγoy iir*《id.》［UYE 9］が挙げられる。被修飾語がどちらも *iir*《名》（女性名詞）であり，夫 と 余 の交替が形態論的変化を生じさせていないことに注意。

前舌素性の順行同化という純粋に音韻上の要因による共時的ゆれであり，形態論の要請による変化とは区別する必要がある[36]。（ハ）は干支に限らなければ 1150 年より前の文献でも在証される。これは，元来は意図的に（イ）1 系列のみを用いる干支のシステムが採用されていたが，遅くとも 1150 年には（イ・ハ）2 系列を用いるシステムに変更されたことを意味する。ここで，1150 年以降の文献の干支に使用される五色の形式を調査すると表 1 の結果を得る。本表により，1150 年以降の文献では（イ）が偶数番目の十二獣としか共起せず，（ハ）が奇数番目の十二獣としか共起しないことが判る。つまり，（イ）は陰干を，（ハ）は陽干を表す形式として使用されているのである[37]。

表 1　1150 年以降の文献に在証される干支（十干）の形式

	甲／乙（青）	丙／丁（赤）	戊／己（黄）	庚／辛（白）	壬／癸（黒）
① 子(鼠)					
② 丑(牛)					
③ 寅(虎)				丞 *sʊʊ*	
④ 卯(兎)					
⑤ 辰(竜)					㠯夂 *xaruu*
⑥ 巳(蛇)					
⑦ 午(馬)		屮㐅余 *läwɣʷ*	屾 …	丞 *sʊʊ*	
⑧ 未(羊)	仐㐅攴 *säwɣʷ*				
⑨ 申(猿)			屾 …		
⑩ 酉(鶏)	仐㐅攴 *säwɣʷ*				虫㕣 *xärüü*
⑪ 戌(犬)	仐夬余 *sawɣʷ*			丞 *sʊʊ*	
⑫ 亥(豚)					

この 2 系列は，男性単数と女性単数との対立であると考えられる。というのも，第一に，黄色と白色については，その表記上の差が右肩の点の有無にある（屾/山，丞/丞）が，この点の有無は基数詞において性の区別を表すからである（1.2 節参照）［吳英喆 2007: 154］。第二に，実際，黄色を表す形容詞の使い分けは性の区別に対応する（37, 38）。

(37) a. 北衣 又雨衣 几夂 戋免为 刃 丂关 山 孙北
«orǰ minž guu tawl'aa; … dor-ii … yor.»
長く ???(IMP) 玉 兎 NEG 落ち着く?-P.PRS.M.SG 黄色い.M.SG 烏(M)

「永く××せよ，玉兎〔月〕；定まらず，金烏〔太陽〕」［XY 29］

[36] 例えば，又 㠯攴㐅夂 *mää yëëruu*《太平(EN)》［S.DIL 13］~ 又 㠯攴㐅㕣 *mää yëërüü*《id.》［UMR 8］の綴字交替において，修飾語 又 *mää*《大きい》は女性単数形のまま変化しない。

[37] ここからも判るように，五色は十二獣を修飾する形容詞として機能しているのではなく，名詞として機能して［名詞＋名詞］の複合語の前部要素となっているのである。

b. ᠵᠢᠯᠤ　ᠪᠤᠷᠤᠨ ᠪᠠᠷᠠᠭᠤᠨ　　ᠳᠤᠮᠳᠠ　ᠵᠢᠷᠭᠤᠭᠠᠨ
«γor　pod-el'-ii　　üm　boyr.»
鳥(M)　戻る-IPFV-P.PRS.M.SG　東に　西に　　「鳥は帰る，東西に。」［GAR 46］

(38) ᠬᠤᠶᠠ　　ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ　　ᠭᠤᠷᠪᠠᠨ ᠤᠨ　ᠬᠠᠭᠠᠨ ᠤ ᠳᠤ　ᠳᠤᠮᠳᠠ
mää　　...　　gur-en　xağ-an　dew
大きい.F.SG　黄色い.F.SG　国(F)-GEN　皇帝-GEN　男性の同性年下きょうだい

「大金国の皇弟」［LX 1］

(37b)から男性名詞と判る ᠵᠢᠯᠤ *γor*《鳥》は点のある ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ によって修飾され，(38)から女性名詞と判る ᠭᠤᠷᠪᠠᠨ *gur*《国》（WMa. *gurun*《id.》）は点のない ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ によって修飾されている。したがって，ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ が男性単数形，ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ が女性単数形である。他の 4 色も，(36)の（ハ）が男性単数形，（イ・ロ）が女性単数形であると推定されるが，それをテキストでの（干支以外での）用例から証明するのは，例が僅少なため不可能である。ただ（イ）の系列である ᠰᠥᠭᠡ *söö*《白い》と ᠰᠠᠭᠤᠸᠠ *säwγ*ʷ《青い》が，女性名詞と証明される ᠭᠤᠤ *guu*《玉（ぎょく）》（WMa. *gu*《id.》），ᠴᠢᠯᠠᠭᠠ *čalaa*《石》（MMo. *čila'un*《id.》）を修飾する例が見つかるのみである（39, 40）。

(39) a. ᠰᠤᠶ ᠬᠥᠷ　ᠰᠠᠭᠤᠸᠠ ᠨᠠᠷ　ᠣᠷᠭᠠᠰ　ᠮᠤᠷᠡᠨ　ᠰᠥᠭᠡ　ᠭᠤᠤ
*«soy　xör　sawγ*ʷ　*ňar;　ňağas　mur-en　söö　guu»*
PN　山(M)-GEN　青い.M.SG　岩(M)　PN　河(F)-GEN　白い.F.SG　玉(F)

「*Soy* 山の緑岩；*Ňağas* 河の白玉」［UJE 45］

b. ᠣᠷᠵᠢ ᠥᠭᠡᠭᠡᠷᠯᠡᠭᠡ　　ᠮᠡᠷᠡᠭ ᠤᠨ　　ᠭᠤᠤ
«orǰ　söğörlää　　mereg-eeňň　guu.»
長く　???.PASS.P.PRS.F.SG　記す-P.PST.F.SG　玉(F)

「永く××されている，（この銘文を）記した玉石が。」［B.CAL 26］

(40) a. ᠣᠷᠵᠢ ᠤᠰᠤ ᠰᠠᠭᠤᠸᠠ　ᠴᠢᠯᠠᠭᠠ　ᠤᠯᠠᠭᠠᠨ　ᠬᠦᠮᠤᠰ
*«orǰ　na-wǰed　säwγ*ʷ　*čalaa,　...　š...!»*
長く　???-P.FUT.PL　青い.F.SG　石(F)　黄色い.F.SG　砂(F)

「永く××するように，緑石と黄沙が。」［YR 25］

b. 𐗅𐗃𐗉𐗆　　𐗇𐗈　𐗀𐗁　𐗂𐗄𐗋𐗌

«mereg-eeňň　*čalaa*　*ler*　*moroγ-os!»*

記す-P.PST.F.SG　石(F)　???　???-OPT

「(この哀辞を）記した石が×× ××せんことを。」［DZ 36］

続いて，色彩語彙の複数形を示すが，これも例は僅少で，わずかに赤・黄・白の複数形が在証されるのみである（41–43）。

(41) 𐗇𐗉　𐗀𐗁𐗍𐗎𐗏　𐗑𐗅𐗊

...　*läwγod*　*kew-s*

二.M　赤い.PL　???-PL　　「2 つの赤い××」［A.DIL 33］

(42) 𐗎　𐗊𐗃𐗑　𐗇𐗉　𐗅𐗏　𐗓𐗋𐗀𐗑𐗀𐗁

...　*sum-eer*　...　*...ud*　*čug-uleğ-eler.*

一.M　矢(M)-INST　二.M　黄色い.PL　???-CAUS-P.PST.M.SG

「一矢を以て二黄（室韋）を鎮圧した[38]。」［UMR 4］

(42)では被修飾語の「室韋」に当たる語が省略されているが[39]，数詞「2」によって修飾されていることから，𐗅𐗏 が複数形であることは明らかである。

(43) 𐗔𐗑　𐗍𐗆𐗐　　𐗒𐗘

sʊʊň　*šʊŋγʊǰ-ǰ*　*alʲʲ-ii*

白い.PL　海東青鶻-PL　得る-C.SEQ　　「白海東青を得て[40]」［SIL 3］

2.9　時空間上の位置を表す形容詞

契丹語には，時空間上の位置を表す後置詞から形容詞を派生する接尾辞 /-d/（MMo. *-DU*）があることが知られている［Takeuchi 2015］。以下ではそのような由来をもつ形容詞の性・数による形態変化を観察する。

[38] 室韋はモンゴル系の民族で，黄室韋はその一種。黄室韋には大黄室韋と小黄室韋があった。

[39] 呉英喆(2015)が載せる未発表資料の一部分の写真には，𐗎 𐗊𐗃𐗑 𐗅𐗏 𐗍𐗆𐗐𐗅𐗃𐗑𐗒𐗃 𐗓𐗋𐗀𐗑𐗀𐗁 ... *sum-eer ... šiluur-en dorel-ber.*《一矢を以て黄室韋を征討した。》と「室韋」の単数形が現れる。

[40] 「海東青鶻（海東青，海青とも）」は沿海州方面に産する猛禽で，鷹狩に珍重した。単数形は 𐗍𐗆𐗒 *šʊŋγʊr*（MMo. *šingqor*《id.》）。

2.9.1 「中央の」

𐲀𐲍𐲒 *dawrer*《(…の) 中間に，中央に》［契丹文字研究小組 1985: 515 ほか］から形成される形容詞「中間の，中央の」として，(i) 𐲀𐲍 *dawrdd*［石金民、于澤民 2001: 62］, (ii) 𐲎𐲍 *däwrdd*(令𐲍 *ṯäwrdd*)［盧迎紅、周峰 2000: 45］, (iii) 𐲀𐲍伏 *dawrddeň*（𐲀𐲍𐲎伏 *dawrddeň*）がある。

(44) a. 𐲀𐲍 𐲤 𐲦𐲓 𐲁𐲦 𐲤𐲃 𐲤力
dawrdd *ay* *suy guy oŋγ-on* *bäγ*
真中の.M.SG 父 隋国王(MT)-GEN 子 「仲父隋国王の子[41]」［YER 6］

b. 𐲍 𐲎𐲍 𐲁刈 𐲍𐲅 𐲀𐲍𐲒
mää *däwrdd* *Xʊʊrǰ* *...ii* *gur-en* 「大中つ契丹国の」
大きい.F.SG 中央の.F.SG （契丹） 契丹の.F.SG 国(F)-GEN ［XAD 1］

(44a)の被修飾語 *ay*《父》は当然，男性名詞である。(44b)の被修飾句の主要部 *gur*《国》は，他の修飾語から明らかなように，女性名詞である。*dawrddeň* を含む例文は 2.3 節の(15)に示した。以上より，*dawrdd* は男性単数形，*däwrdd* は女性単数形，*dawrddeň* は複数形である。

2.9.2 「内の」「外の」

𐲏𐲒 *uǰen*《(…の) 内に》［趙志偉、包瑞軍 2001: 38］から形成される形容詞「内の」には，(i) 𐲏𐲎 *uǰed*［即實 2012: 12, passim］，(ii) 𐲑𐲆 *...id*，(iii) 𐲏𐲎伏 *uǰedeň*［ibid., 99, passim］がある。

𐲃𐲍𐲒 *buğur*（𐲑𐲍𐲒 *pūğur*，𐲃𐲘𐲒 *buur*，𐲑𐲘𐲒 *pūur* とも）《(…の) 外に》［ibid., 96, passim］から形成される形容詞「外の」には，(i) 𐲑𐲍化 *pūğudd*（𐲃𐲘化 *buudd*。偶々 𐲃𐲍化 *buğudd* は在証されない）［ibid., 12, passim］，(ii) 𐲃𐲋𐲔 *büğüdd*（𐲑𐲋𐲔 *püğüdd*），(iii) 𐲃𐲍化伏 *buğuddeň*（𐲑𐲍化伏 *pūğuddeň*）［ibid., 99, passim］がある。

(45) a. †𐲊𐲎 𐲑 𐲏𐲎 𐲑𐲍化 𐲓 𐲍 𐲏 𐲘𐲅
gʊʊr xaa *uǰed* *pūğudd* *ǰaw* *nay,* *mää* *čiiž* *oreľ-ľ*
葛児罕(MT) 内の.M.SG 外の.M.SG 百 官僚(M) 大きい.F.SG 親類(F) 率いる-C.SEQ

「葛児罕〔皇帝〕が内外の百官および宗室を率いて」［RY 14］

[41] 「仲父」は，太祖（耶律阿保機）の父と伯父 2 人の 3 兄弟のうち，真中の人物を言う。

b. 丞　　又　　关仉矢　　及子伏　　⊥丸　　丹目央　　永冬为

...　　*mää*　　*iir-end*　　*oo-leňň,*　　*...id*　　*büğüdd*　　*časaa*

小さい.F.SG　大きい.F.SG　官職(F)-DAT　入る-P.PST.F.SG　内の.F.SG　外の.F.SG　閘撒(F)

厓当　　令仝丞　　达　　爪奕　　丟九伏　　刃　　口永屮攴羽

...-eeňň　　*tämž*　　*öl.*　　*kib*　　*mereg-eň*　　*...*　　*teeǰ-lu-uǰ.*

知る-P.PST.F.SG　数(F)　多い　すべて　記す-C.COND　NEG　終わる?-PASS-P.FUT.SG

「大小の官職に就いたり，内外の閘撒を管掌した数は多い。すべて記せば切りがない。」［UJE 4–5］

c. 羽仝伏　业只化伏　　关仉仐　　丞　　又　　永冬为史

uǰedeň　*pūğuddeň*　　*iir-s,*　　*...*　　*mää*　　*časaa-nd*

内の.PL　外の.PL　　官職-PL　　小さい.F.SG　大きい.F.SG　　閘撒(F)-DAT

及仝当　　达

oo-l'-eeňň　　*öl.*

入る-IPFV-P.PST.F.SG　多い

「内外の官職や大小の閘撒に入ったことは数多い。」［TOG 13］

(45a)の *ǰaw nay*《百官》は男性の集団を指し[42]，(45b)の *ǰasaa*《閘撒（行政単位の一）》は(45c)から判るように女性名詞である。ゆえに，*uǰed*, *buğudd* は男性単数形，⊥丸 *...id*, *büğüdd* は女性単数形，*uǰedeň*, *buğuddeň* は複数形である[43]。

2.9.3 「前の」「後の」

永礻 *čar* または 吊礻 *čaar*《(…の）前に，先に》［契丹文字研究小組 1985: 592］と 圵为夭 *oraan*《(…の）後ろに，後に》［愛新覚羅・吉本 2011: 144[44]］から形成される形容詞「前の」「後の」として，まず 吊先 *čaard*［即實 1996: 174］と 圵为亦 *oraad* が挙げられる。

[42] 百以上の数では原則として単数名詞が用いられる。なお，邿 *ǰaw*《百》(MMo. *ja'un*《id.》)，矣 *mäŋ*《千》(MMo. *minqan*《id.》)，及 *tum*《万》(MMo. *tümen*《id.》）には性の区別がない。

[43] なお，在証例の多くでは，例文のように「内外」が「中央と地方」の意で用いられる［即實 2012］。他に，「内の」が「皇室の」の意で用いられることもある［愛新覚羅・吉本 2011: 109］。

[44] 同書は 圵为夭 を「ura-n」と読んで「後（属格形）」とするが，この *-n* は語幹の一部であって格接辞ではない。契丹語には単数主格が *-n* 終わりで，他の接辞が後続する場合にこの *n* を含まない形式が現れる一連の語彙がある（cf. 仉九礻 *irgen*《夷离堇(MT)》(単数ゼロ格)：仉九仝 *irg-ed*（複数ゼロ格)）。2.9.2 節の 羽礻 *uǰen*《内に》もこれに属する。

(46) a. 夂爻　　㫐爻　　†仐爿　几火凡关　仐斥冇及　　今乔伏　　业化
γʊddeer　*čeweer.*　*säŋ guŋg-undii*　*saldy-er*　　*puužiň*　*pīr*
第三.M.SG　MN　　相公(MT)-ABL　離別する-C.???　夫人(FT)　妊婦

业考当　　禹先　　攴　　羽村[45]　佃爻
pʊʊ-ňň.　　*čaard*　*sayr*　*uǰen*　*sʊʊy-eer.*
である-P.PST.F.SG　前の.M.SG　月(M)　内に　生まれる-P.PST.M.SG

「三（男）は *Čeweer*。（夫である）相公と死別する際，（*Čeweer* の母である）夫人は妊婦であった。先月のうちに（*Čeweer* が）生まれた。」［S.DIL 33］

b. 冇仃达伏　　亚丑亦村　　圳为亦　　公亦歹村　　六矢几伏　丞孓　　亚
yöğöleň　　*xağ-ad-en*　　*oraad*　　*nadbar-en*　*kendegeň*　*xöraγ*　*xaa*
遥輦(GN)の.PL　可汗(MT)-PL-GEN　後の.M.SG　王朝(M)-GEN　MN　　MN　　可汗

「遥輦可汗たちの最後の王朝の *Kendegeň Xöraγ* 可汗[46]」［GAR 3–4］

sayr《月》が男性名詞であることは(22b)ですでに示した。(46b)の被修飾語 *nadbar*《王朝》が男性名詞であることは，以下の(47)から判る。

(47) †亚丑亦　　土爻　　公亦歹　　关　业攵
xağ-ad　　*ter-eer*　　*nadbar*　*an*　*pūu.*
可汗(MT)-PL　始める-P.PST.M.SG　王朝(M)　3SG　である.PRS

「可汗たちが創始した王朝がそれである。」［CAW 4］

čaard と *oraad* は，上例のように単数の男性名詞と共起する例しか見えない。そこで女性単数形は別に存在すると考えられるが，それは 永肖 *č...*（永丬肖 *čää...* とも）と 永丬丙 *örääd* であると考える。両者は，2 人以上の妻について述べる際に用いられることがあり，先行研究では前者を「正しい」（嫡室），後者を「最小の」（側室）の意と解釈している［愛新覺羅 2004c ほか］。しかし，このような解釈は次の(48)のような用例との整合性がなく，受け入れることができない。

[45] テキストの欠損部を文意によって復元した箇所は枠で囲って示す。
[46] 遥輦氏は，遼朝を創始した耶律氏の前代の契丹王室。

(48) 𐲢𐲤𐲱 𐲳𐲠 𐲞 𐲰𐲳𐲴 𐲴𐲵伏𐲴𐲳 𐲴𐲶伏 八 𐲷𐲸丹
čää... suň, dəər tal-d-eer kewňeğes on-leň ... ṯeeb.
前の.F.SG 夜(F) 四.F 方面(F)-PL-DAT 甘露 落ちる-P.PST.F.SG 地(F) ???

𐲢𐲅𐲱 𐲬 𐲭 𐲵𐲫𐲴 𐲴𐲶 𐲴𐲶𐲵出
ču̱ddeeňň ňär, ... uŋgus-ed ewl daw-laǧ-eň,
第二.F.SG 日(F) 五.M 色(M)-PL 雲 見る-PASS-C.COND

「(亡くなる) 前夜，四面に甘露が降りた…翌日，五色の彩雲が見えると」
［D.CAL 56–57］

(48)において 𐲢𐲤𐲱 𐲳𐲠 を「正しい夜」とすると理解に苦しむ。𐲳𐲠 *suň*《夜》(MMo. *söni*《id.》) は 𐲞 𐲳𐲠𐲬 *ňum suň-end* (一.F 夜-DAT)「一晩に」［D.CAL 38］という表現から女性名詞であることが判るので，𐲢𐲤𐲱 *čää...* は 𐲟𐲵 *čaard*《前の》に対応する女性単数形である。また，𐲢𐲱 𐲣𐲤𐲶𐲬 *č... örääd-ii* (前の.F.SG 後の.F.SG -ACC)「後先を」［GAR 28］という表現が確認できる 𐲣𐲤𐲶 *örääd* は 𐲁𐲘𐲯 *oraad*《後の》に対応する女性単数形であることが判る。

複数形は，𐲟𐲵伏 *čaardeň* が在証されるが，†𐲁𐲘𐲯伏 *oraadeň* は在証されていない。

(49) 𐲟𐲵伏 𐲬伏𐲴 𐲬 𐲰𐲷𐲹 𐲴𐲵𐲠𐲳𐲴 𐲹𐲶 [47]伏 𐲶 𐲤 𐲵𐲫
čaardeň ňär-eň-eer ňär tobos, kewňeğes mey...-eň, xör tal ews moo
前の.PL 日-PL-DAT 太陽 ??? 甘露 ???-C.COND 山 平原 草 樹木

𐲴𐲬 𐲶伏 𐲳及𐲸生𐲷𐲢
kib sʊʊň pʊ̄ool-d-l'-eejj.
すべて 白い.PL なる-?-IPFV-P.PST.PL

「(亡くなる) 前の数日間に，太陽××甘露××すれば，山野草木みな白くなっていた。」［UJE 29］

2.9.4 「上の」

𐲹化 *uud*《上の》［盧迎紅、周峰 2000: 44–45］という語が確認されているが，この派生元の後置詞は 𐲹𐲷 *uun*《(…の) 上に》である。この語は「皇上 (お上)」を意味する男性名詞としても使用される。𐲹化 *uud* は以下に示すように男性単数形であり，女性単数形は 𐲺𐲻 *üüd*，複数形は 𐲹化伏 *uudeň* である。

[47] テキストの判読不能な箇所は網掛けで示す。

(50) a. 𐲀𐲍𐲆　　𐲇𐲎𐲁𐲁　　𐲂𐲋 𐲈𐲊

Uud　　*giŋg-ed*　　*lëw šew*

上の.M.SG　京(M)-GEN　留守(MT)　　「上京の留守」［S.DIL 25］

b. 𐲍𐲉　　𐲇𐲎𐲁𐲄𐲁　　𐲅𐲄𐲍𐲆𐲂　　𐲀𐲈

«...　*giŋg-ed-en*　*...ʊğʊdber*　　*nay.»*　　「四京の〔四京を治めた〕仁官」

四.M　京(M)-PL-GEN　仁徳のある.M.SG　官吏(M)　　［YR 19］

(51) a. 𐲃　　𐲆𐲄𐲁　　𐲋𐲌　　𐲈𐲎𐲌　　𐲉𐲋𐲍𐲄𐲅

...　　*šu-d-en*　　*üüd*　　*min-end*　　*kuyr-eğ-eel*　　「三師の高位に達させて」

三.M　師-PL-GEN　上の.F.SG　位(F)-DAT　至る-CAUS-C.SML　　［O.JUR 42］

b. 𐲉𐲌𐲆𐲍𐲀　𐲅𐲊　　𐲅𐲄𐲌　　𐲎　　𐲈𐲎　　𐲆𐲄𐲍𐲄𐲆　　(…中略…)

kendegeň　*xäraγ*　*xağ-an*　　*mää*　　*min*　*yewd-eğ-ey*

MN　　MN　　可汗(MT)-ACC　大きい.F.SG　位(F)　遷る-CAUS-C.SEQ

𐲌　𐲁　𐲄𐲅𐲆　　𐲉𐲂𐲅

... ... *xoŋtii-nd*　　*uğ-useel,*

MN　皇帝(MT)-DAT　与える-C.ADV

「*Kendegeň Xäraγ* 可汗が大位を遷して…××皇帝〔耶律阿保機〕に譲ると」

［UJE 2］

(52) 𐲍𐲆𐲀　　𐲌　　𐲄𐲁　　𐲆𐲄　　𐲁𐲋　　𐲆𐲄　　𐲄𐲍𐲅𐲄

uudeň　*dilee*　*ay-d*　*yaw-ooňň*　　*mөөr*　*er-ey*　　*aald-ağ-aa.*

上の.PL　七.M　父-PL　行う-P.PST.F.SG　道(F)　???-C.SEQ　伝える-PASS-P.PRS.PL

「上の父祖 7 人は，（自分たちの）行状を××伝えられている[48]。」［GAW 8］

2.10　固有形容詞

契丹語文献では，ある人物について言及する時，その人物の出自・所属集団を，属格名詞句または形容詞によって冠して呼ぶことがある。その固有形容詞にも性・数による使い分けがあることが知られる［愛新覚羅 2006 ほか］。そのような形容詞のいくつかについて，筆者の見解をまとめて結果のみを示すと次のようになる。

[48] ここでは墓主の大叔父 7 人について記述した後，それを承けて「上の」（上述の）と言っている。一般には，𐲍𐲆𐲀 𐲄𐲁 *uudeň ayd* は「祖先たち」を意味する。

表２　固有形容詞の性・数による形態変化

固有名	男性単数形	女性単数形	複数形	語幹
契丹	𘰾𘰀 *...er*	𘰾𘰇 *...ii*	𘰾𘰉 *...es*	/.../
漢	𘰽𘰓𘰄𘰼 *ǯäwɣor* 𘰺𘰋𘰼 *ǰawɣor*	𘰽𘰓𘰄𘰽 *ǯäwɣoy* 𘰺𘰋𘰽 *ǰawɣoy*	𘰽𘰓𘰄𘰿 *ǯäwɣos*	/ǰäwɣʷ/ ~ /ǰawɣʷ/
渤海[49]	𘰀𘰁𘰂𘰀 *mirger*	𘰀𘰁𘰃𘰇 *mirgii*	𘰀𘰁𘰂𘰉 *mirges*	/mirg/
奚[50]	𘰉𘰺𘰄𘰀 *ţädäär* 𘰄𘰺𘰌𘰽 *dädaar*	𘰄𘰺𘰄𘰇 *dädääy*	————	/dädää/ ~ /dädaa/
遥輦（契丹氏族）	𘰺𘰁𘰅𘰀 *yöğöler*	𘰺𘰁𘰅𘰇 *yöğölii*	𘰺𘰁𘰅𘰊 *yöğöleň*	/yöğöl/
拔里（契丹氏族）	𘰊𘰼𘰀 *bärer*	𘰋𘰇 *barii*	𘰋𘰄 *bard*	/bar/
乙室己 （契丹氏族）	𘰿𘰂𘰀 *ižger*	𘰿𘰂𘰇 *ižgii*	𘰿𘰂𘰉 *ižges* 𘰿𘰂𘰄 *ižged*	/ižg/

3　まとめ

2 節で明らかにした形容詞の性・数による形態変化をまとめると，次表 3 の通りである。ここでは音韻論的解釈を施した表記に書き換えた[51]。

表３　契丹語形容詞の性・数による形態変化

	男性単数	女性単数	複数	語幹
2.2 大	mogʷ	mäg	mag-s	mag
2.2 小	oǰɣʷ	*öǰɣʷ	oǰɣʷ-s	oǰɣʷ
2.3 首	masɣʷ	*mäsɣʷ	masɣʷ-ň	masɣʷ
2.4 新	šan	šän	šan-s	šan
2.5 余	pulgʷ	pülgʷ	——	pulgʷ
2.6 善	šäg	šäg	šag-d	šag
2.7 長	or	ör	——	or
2.8 青	sawɣʷ	säwɣʷ	——	sawɣʷ
2.8 黄	...	...	...-d	...
2.8 白	sʊʊ	söö	sʊʊ-ň	sʊʊ
2.8 黒	xaruu	xärüü	——	xaruu
2.9.1 中	dawrrd	däwrrd	dawrrd-ň	dawrrd
2.9.2 内	uǰd	*üǰd	uǰd-ň	uǰd
2.9.2 外	buğʷrd	büğʷrd	buğʷrd-ň	buğʷrd
2.9.3 前	čaard	*čäärd	čaard-ň	čaard
2.9.3 後	oraad	örääd	——	oraad
2.9.4 上	uud	üüd	uud-ň	uud

	男性単数	女性単数	複数	語幹
2.4 旧	aamr	aamr-ň	aamr-y	aamr
2.6 悪	modaar	modaar-ň	modaar-y	modaar
2.7 短	čärɣ	čärɣ	——	čärɣ
2.8 赤	läwɣʷ	läwɣʷ	läwɣʷ-d	läwɣʷ
2.10 契丹	...-r	...-ii	...-s	...
2.10 漢	ǰäwɣʷ-r	ǰäwɣʷ-ii	ǰäwɣʷ-s	ǰäwɣʷ
2.10 渤海	mirg-r	mirg-ii	mirg-s	mirg
2.10 奚	dädää-r	dädää-ii	——	dädää
2.10 遥輦	yöğʷl-r	yöğʷl-ii	yöğʷl-ň	yöğʷl
2.10 拔里	bär-r	bar-ii	bar-d	bar
2.10 乙室己	ižg-r	ižg-ii	ižg-s	ižg

[49] この語を，愛新覚羅・吉本（2011）は渤海人の姓氏「大氏」とするが，渤海の旧称「勿吉」と音韻的に対応すること等から，渤海人そのものを指すとみるべきである。

[50] この語を，愛新覚羅（2006）は奚人の姓氏「迭剌氏」（史書には見えない）とするが，奚の音訳「迭達」に対応するので，奚人そのものを指すとみるべきである［大竹 2016b: 10］。

[51] ただし，ここでは後続子音に同化する *r* と同化しない *r* の区別など，形態音韻論的に重要な差異が表記に反映されていない。これについては稿を改めて論じる。

表 3 左側から，契丹語には形容詞の女性単数形を形成するための形態操作として，母音を前舌化させるという操作が存在することが明らかとなった[52]。これは，これまで接辞附加以外の形態操作が想定されていなかった契丹語の形態論を解明する上で非常に重要な発見である[53]。この一般化によって，音価未定であった 𗼇𗹦 *...öγʷ*《小さい.F.SG》を ***öǰöγʷ***，𗼻𗹦 *m...öγʷ*《首位の.F.SG》を ***mäsöγʷ***，𗼇𗼃 *...id*《内の.F.SG》を ***üǰid***，𗼃𗼇𗼇 *čää...*《前の.F.SG》を ***čäärd*** と推定することができる。

また，男性単数形と語幹とがイコールではないということも指摘しておかなければならない。女性単数形と複数形とを規則的に形成するためには表 3 に示した語幹の設定が必要であるが，その語幹と男性単数形とは，いくつかの語において食い違うからである[54]。この語幹は，他の語形成においても必要となるもので，例えば副詞派生接辞 *-ǰ* の附加対象はこの語幹である。

(53) 𗹦𗼃𗹦 *mağ-aǰ*《大いに》，𗼻𗼇𗼇 *ʊňʊγ-ʊǰ*《少し》，𗹦𗽑𗼃 *šan-ǰ*《新たに》，
𗼃𗼇𗹦𗼇 *pulug-uǰ*《あまりに，とても》，𗹦𗼃𗹦 *šağ-aǰ*《善く》，𗼃𗼃 *or-ǰ*《長く》，
𗼃𗹦𗼇𗹦 *čäraγ-aǰ* ~ 𗼃𗹦𗼇𗹦 *čäräγ-aǰ*《短く》

一方で，*r* 語幹の形容詞は前舌化ではなく接辞附加によって女性形を形成する（*aameňň*《古い》，*modaaňň*《悪い》）。また，男性形と女性形とが同形の語も存在する（*čäräγ*《短い》, *läwγʷ*《赤い》）。2.10 節で取り上げた固有形容詞は，男性単数形は *-r* を，女性単数形は *-ii* を附加することによって形成するという，また別の形成法をとっている。このように，形容詞の中にも様々な形成法が存在することが同時に明らかとなった。その要因については今後の課題としなければならない。

複数形に関しては，名詞と同様に接辞 /-d, -s, -ň, -y/ の附加によって形成されるという点で一貫している。ただし，このような複数接辞の使い分けの原理については今後解明する必要が残されている。

略号

〔言語名〕

MMo. 中期モンゴル語　　WMa. 満洲文語　　WMo. モンゴル文語

[52] 非初頭音節の母音の前舌化は，初頭音節の母音の前舌性に起因するとみなすことができる。
[53] この前舌化という形態操作は，形動詞現在⑵の女性単数形を分析する上でも重要であるが，紙幅の都合上，稿を改めて論じたい。
[54] 表 3 では網掛けにして示してある。ただし，このような食い違いが存在する原因は定かではない。

〔資料名〕

A.DIL	『*Ärlʊğooňň Dilugʷ* 墓誌』（1114 年）	B.CAL	『*Baysbeňň Čalaa* 墓誌』（1113 年）
CAW	『*Bedelbeňň Čawǰ* 墓誌銘』（1082 年）	D.CAL	『*Dëwreň Čalaa* 墓誌』（1072 年）
DEW	『*Üriyeeňň Dëwr* 墓誌』（1103 年）	DZ	『道宗皇帝哀冊』（1101 年）
GAR	『*Lëëneň Гaar* 墓誌』（1091 年）	GAW	『*Oŋguň Gaw-šib* 墓誌』（1076 年以降）
K.DIL	『*Kuuŋguň Dilee* 墓誌』（1101 年）	LAO	老虎溝出土墓誌残文（1171 年）
LUP	『*Čawň Lüü-pun* 墓誌』（1053 年）	LX	『大金皇弟都統経略郎君行記』(1134 年)
MEN	『*Mëënseň* 某墓誌』（1175 年）	O.JUR	『*Oreyeeňň J̌uurǰee* 墓誌』（1150 年）
RY	『仁懿皇后哀冊』（1076 年）	S.DIL	『*Sarağaň Dileed* 墓誌』（1092 年）
SIL	『*Saraaň Šiluu* 墓碑』（1100 年）	S.JUR	『*Šiluğuňň J̌uurǰee* 墓誌』（1107 年）
TOG	『*Puunuuň Toγoser* 墓誌』（1068 年）	UJE	『*Uǰeeňň* 某墓誌』（1071 年）
UMR	『*ʊ̈ordoğooňň Umur* 墓誌』（1102 年）	URD	『*Eseneň ʊ̈ordoğolağaar* 墓誌』（1105 年）
URG	『皇太叔祖妃 *Uureğeeňň* 墓誌』（1110 年）	UYE	『*Awlʊğooňň Uyeer* 墓誌』（1100 年）
XAD	『*Kuyreğeeňň Xaadii* 墓誌』（1080 年）	XUD	『*Teleğeeňň Xʊʊdʊγoň* 墓誌』（1091 年）
XY	『宣懿皇后哀冊』（1101 年）	XZ	『興宗皇帝哀冊』（1055 年）
YER	『*Orelbeňň Yëëruu* 墓誌』（1094 年）	YR	『義和仁寿皇太叔祖哀冊』（1110 年）
YUN	『*Yuŋguň* 某墓誌残文』（1088 年）		

〔グロス〕

3	三人称	ABL	奪格	ACC	対格	ADV	副詞節形成	C	副動詞
CAUS	使役態	COND	条件	DAT	与位格	EN	元号	F	女性
FN	女性名	FT	女性称号	FUT	未来時制	GEN	属格	GN	集団名
INST	造格	IMP	命令法	IPFV	非完結相	M	男性	MN	男性名
MT	男性称号	NEG	否定詞	ONOM	擬声語	OPT	願望法	P	形動詞
PASS	受動態	PL	複数	PN	地名	PRS	現在時制	PST	過去時制
QUOT	引用標識	SEQ	継起	SG	単数	SML	共起		

参考文献

〔和文〕

愛新覚羅烏拉熙春（2006）『契丹文墓誌より見た遼史』京都：松香堂書店.

愛新覚羅烏拉熙春・吉本道雅（2011）『韓半島から眺めた契丹・女真』京都：京都大学学術出版会.

大竹昌巳（2015）「契丹語における性・数の一致と文法的性の存在」『日本言語学会第 150 回大会　予稿集』368–373 頁，日本言語学会.

————（2016a）「契丹語格接尾辞の数による分裂現象」第 69 回言語記述研究会（2016 年 2 月 6 日，京都大学）配布資料.

————（2016b）「契丹小字文献における『世選之家』」『KOTONOHA』159: 1–12.

豊田五郎（1991）「契丹小字《耶律仁先》読後」1991 年 6 月 23 日付手稿［武内康則〔編〕『豊田五郎 契丹文字研究論集』326–327 頁，京都：松香堂書店，2015 年］.

呉英喆（2015）「契丹小字史料における『失（室）韋』」『日本モンゴル学会紀要』45: 3–8.

〔欧文〕

Takeuchi Yasunori (2015) Direction terms in Khitan. *Acta linguistica Petropolitana* 11(3): 453–464.

〔中文〕

愛新覺羅烏拉熙春（2003）〈契丹語的序數詞〉《東亞文史論叢》2003: 55–62［愛新覺羅 2004a: 179–187］.

————（2004a）《契丹語言文字研究》京都：東亞歷史文化研究會.

————（2004b）〈契丹蒙古札記〉《遼金史與契丹女真文》103–126 頁，京都：東亞歷史文化研究會.

————（2004c）〈永清郡主與太山將軍世系考——兼論國舅別部大小翁帳之族屬〉《東亞文史論叢》2004: 1–36.

高路加（1988）〈契丹小字複數符號探索〉《內蒙古大學學報（哲學社會科學版）》1988(2): 44–51.

即實（1988）〈從 ﬠ 丹ㄉ 說起〉《內蒙古大學學報（哲學社會科學版）》1988(4): 55–69.

————（1994）〈一個契丹原字的辨讀〉《民族語文》1994(5): 70–71.

————（1996）《謎林問徑——契丹小字解讀新程》瀋陽：遼寧民族出版社.

————（2012）《謎田耕耘——契丹小字解讀續》瀋陽：遼寧民族出版社.

盧迎紅、周峰（2000）〈契丹小字《耶律迪烈墓誌銘》考釋〉《民族語文》2000(1): 43–52.

內蒙古大學蒙古學研究院蒙古語文研究所（1999）《蒙漢詞典》增訂本，呼和浩特：內蒙古大學出版社.

契丹文字研究小組〔清格爾泰、劉鳳翥、陳乃雄、于寶麟、邢莽里〕（1977）〈關於契丹小字研究〉《內蒙古大學學報（哲學社會科學版）》1977(4)（契丹小字研究專號）.

契丹文字研究小組〔清格爾泰、劉鳳翥、陳乃雄、于寶林、邢復禮〕（1985）《契丹小字研究》北京：中國社會科學出版社.

石金民、于澤民（2001）〈契丹小字《耶律奴墓誌銘》考釋〉《民族語文》2001(2): 61–68.

王弘力（1986）〈契丹小字墓誌研究〉《民族語文》1986(4): 56–70.

吳英喆（2005）〈契丹小字“性”語法範疇初探〉《內蒙古大學學報（人文社會科學版）》2005(3): 25–28.

————（2006）〈從帶點與不帶點的原字論說契丹語“性”語法範疇〉《中央民族大學學報（哲學社會科學版）》2006(6): 101–107.

————（2007）《契丹語靜詞語法範疇研究》呼和浩特：內蒙古大學出版社.

趙志偉、包瑞軍（2001）〈契丹小字《耶律智先墓誌銘》考釋〉《民族語文》2001(3): 34–41.

On Gender and Number Representation in Khitan Adjectives

ŌTAKE Masami

Abstract

Khitan is a dead language genealogically related to the Mongolian languages which is mainly being researched by deciphering the Khitan Small Script. Khitan is highly agglutinative and thus mostly depends on the morphological process of affixation for word-formation. It has the grammatical categories of gender and number, which are also reflected in its affixation system, or at least its known part.

This paper reexamines the system of gender and number representation in Khitan adjectives by collecting and interpreting examples of adjectives on which these grammatical categories are expressed. As a result, the paper shows that in Khitan, plural forms of adjectives were derived by affixation as with other parts of speech, but feminine singular forms of some adjectives were derived by vowel-fronting of the stem (e.g. *šan* "new.M.SG," *šän* "new.F.SG," *šan-s* "new.PL"). This newly-gained knowledge is of critical importance for a proper understanding of Khitan morphology, as it had previously been assumed that Khitan has no morphological processes other than affixation.

受領日2016年10月8日
受理日2016年12月26日